

多文化学校 2016/17 第2回学習会

映画＋トーク

『レツを組む話』

連帯、というとなんとはなしに肩肘張るので、レツを組む、とってみます。レツは連れであり列であり烈でもあります。ここに四半世紀前につくられた1本の映画があって、それをテキストにして、運動と共同性についてあれこれことばを交わしてみたいとおもいます。多文化学校16/17の第1回は、スペイン革命(内戦)で民衆がもともと実践した、社会的・経済的・人間的な関係を変革する試み、についてのトークをしました。今回は、その課題を曲線的に引き継いでの学習会です。

映画『ベンポスタ・子ども共和国』 上映 + 青池憲司監督自作を語る
(1990年製作/監督:青池憲司/99分) + フリートーク

<ベンポスタ・子ども共和国>は、スペインのガリシア地方にあって、「学ぶこと」「働くこと」「生活すること」を一体として行う共同体でした。過去形で書くのは、残念ながら、いまそれはホボ消滅しているからです。当時の構成員は約140人、6歳から18歳の子ども・少年少女が約100人、20代から70代のおとなが約40人。出身も、ラテンアメリカ、アフリカ、ヨーロッパ各国、日本と多民族共同体です。ベンポスタが考えていることは「貧しい人、弱い人たちが抑えつけられて、身動きがとれない世の中の仕組みを変えたい、そのために、新しい人間を生みだしたい」というものです。その生活は三つの要素で成り立っています。学校と労働とサーカスの練習。午前中は学校で勉強し、午後は工作所や畑での労働とサーカスの練習です。労働は子どもたちがさまざまな技術を身につけるためであるとともに、彼/彼女らは働くことで報酬をえて、授業料、食費、宿舍費、日用品代など生活費を自分で賄っています。サーカスは共同体の構成員すべてが団員で、国内外で公演し、ベンポスタの理想である「生きる喜びと博愛」をつたえます。もう一つ大事なことは、共同体の経済基盤の多くがサーカス公演で成り立っていることです。

映画『ベンポスタ・子ども共和国』は、この共同体の日に寄り添うことで、その理念と生活を提示した作品です。



[日 時] 2017年**3月4日(土)**

開場13:00/開会13:30

[会 場] 日本福音ルーテル東京教会 (1F会議室)
東京都新宿区大久保1-14-14
JR新大久保駅から明治通り方向へ徒歩5分

[参加費] 1000円



[主 催] 多文化学校運営委員会 WEBサイト = <http://tabunnka.jimdo.com>

[お問い合わせ] 多文化学校運営委員会事務局 〒169-0072新宿区大久保2-10-2山崎ビル1F (あらばき協働印刷内)

TEL=03-3205-7871 Eメール=tabunnka2015@gmail.com